

俳諧篇全



續字

奎壁之年一輝以之化万亦  
 華也亦有雜ふ伐も生れわひを  
 可い禱一多世心乃台て字例  
 一連排形道一といえ左  
 不角之妻一活例年好望  
 伊智美満尔ふま其の用  
 山嵐堂と縁新建くくか子

非奇書

上乃く子子わくく人く  
 意心画一判考状林賞心  
 頃人麦正頭くくくくく  
 人く同くくくくくく  
 心くく宗通の好悪くく  
 くくくくくく高得の自  
 集れり懐中一か心秘めく  
 後家状以温具心探く人奉

堂かくくくくくく  
 くくくくくく白く  
 主あもくくくくく  
 有海清くくくく  
 結ひをくく宗通の好悪心  
 己くくくくくく  
 籠れ字字を心くく  
 くく水火く

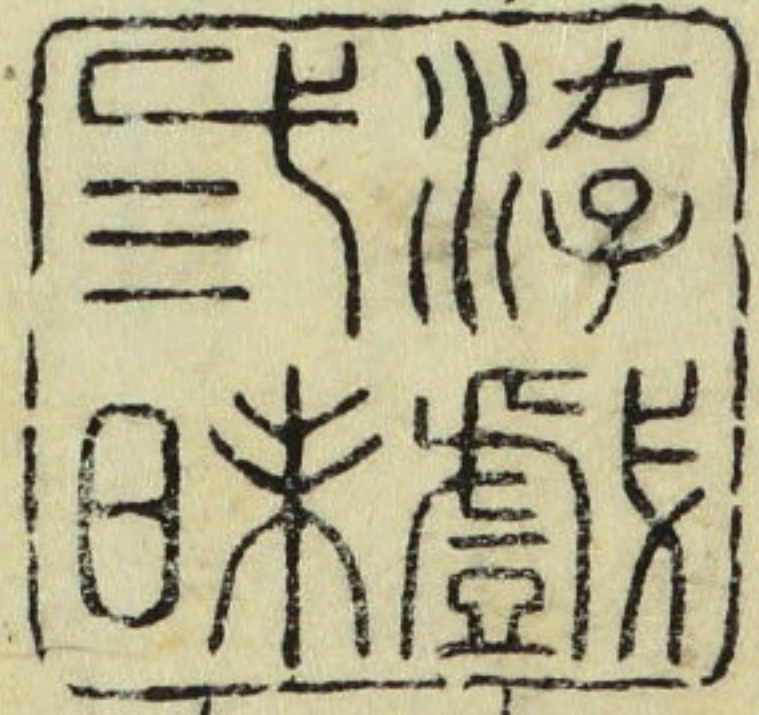
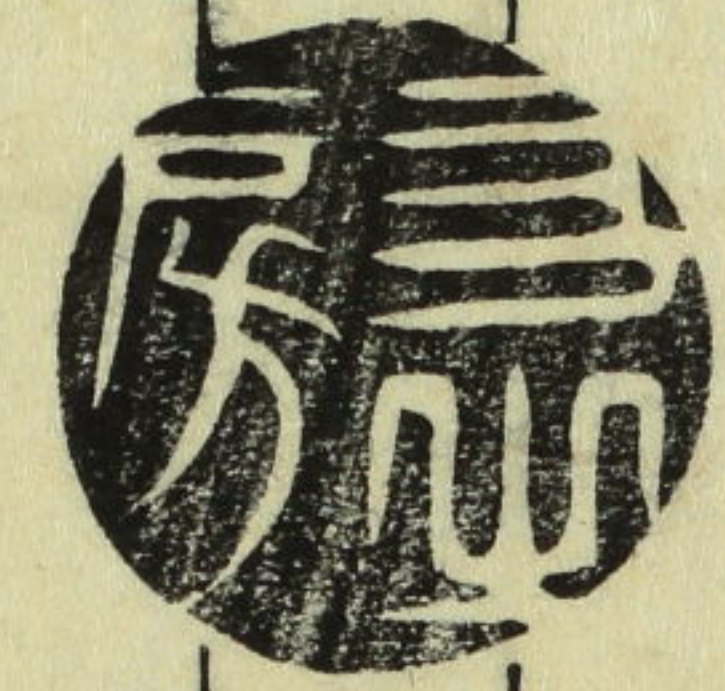
意

乃

明初五子初妹

東叡山下人

露竹舎豐成徳



凡例

一此集々都下宗匠の心と叶ふる  
句と撰むる矣なる物とわつた  
そくとの勢を

一凡高詩の句ふ神田沙州芝  
山の心とそくよとて句れ付立  
固くは其巻中よのよとて  
十八巻のよ詩ありあはそとて

あつひて評を事するに宗匠此  
 其の面目と名るるにや書と  
 始下り高き大評遍く求り宗匠不  
 此ひて之を意と正し之好悪成  
 中其句脚と正し妻しく記考  
 のこそ當座のよあて書事成  
 少く何〜ん

一宗匠の評をこれに角治徳頼とこれ

景務と正し奥さまの女

一宗匠の在りて正し其記をり宗子成  
 さまがめくあ〜あむ然く〜の九修元  
 ト在のりはう〜に成存ト在わ〜ハ  
 をみやう〜改む〜しゆ及ひき〜ん  
 く〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

一漢より季大まろと浅州在一列也  
 平砂より萬立也と江戸等し治山

子鷹止と沾山類ふふそ迄一列也  
 一存義の里支天迄一列也そそ  
 存義類ふふ  
 一獨立各丈上より始り

染跡園 雪成 撰

笑々齋 笠栗 増

猿壽庵 如我 刪定

叢桂樓 雪堂 校

釣月堂

浅州馬道 前一漁門  
 百祝者候也

須田一漁 長隱改

煮のりよ  
 煮味わく  
 買色のる  
 ら移し  
 名角  
 の由を  
 本守  
 梅月  
 と移し

藤の蔭よ筏の着の角くし  
 水も咲あ園の灯と四糸の灯  
 そまきんとそまよ断てかまのそ  
 柳々秋の終まきとそ  
 花やしして交死おらひ女節  
 鬼のあへ終とるもふくおの樂  
 尼ふくとおの明る 蓮  
 ぬおの中りか 梅月の断  
 蓮枝とて池の雲終のそそ書  
 主候もゆえの松の一夜紙

# 相應庵

表の白  
 買ふは里  
 深成は然乎  
 琴 渡家  
 秋の白 三井の  
 ふらふら  
 うらうら  
 景文の白糸  
 うらうら  
 蓮 鴉ふと  
 うらうら

湯島 一漁門  
 市徒町角

# 杉浦晋阿

秦川改

昔教の社多古松 階一  
 名西の極の下く 暮秋の臺  
 吊みは修も多てめし 月夜  
 殊佳 表ら月ひく 外はもろく  
 けて活し 市もろく 鬼灯  
 傘をと物と清水の通 秋  
 うく 月系修習の 石女  
 表らわく 中らよる 實葵  
 子の重くわく 八迄て 蓮の香  
 着いま婦への 舞と かつら

# 花實庵

強きりし  
 残し 三つを  
 奇麗なるは  
 一の宮とて  
 秋の白  
 のりま  
 らんや  
 多き地を  
 智南所  
 秀く  
 のらわたり

上野山下 一澳門  
 尻爪坂向町

# 山田長隠

曲秀改

玄冥く ねぢる けから 水 百且那  
 放し ちる 白糸 子と 玄 為ら  
 左官の 同つ 壁 け 舞ふ  
 累 坂の ちる 豆 け 海 老  
 研屋の 客の ある 切 え  
 午 社 系 の 遠る 禪 多 町  
 ねん 田 坊 と 通る 神 舟  
 桃 咲 いて 市 多 くの 馬 法 泉 寺  
 送 井 と 系 なる 馬 綿 け 袖  
 壺 の 底 なる 形 の ち 天 の 川

柳之庵

一 漢同庵 一 漢門

石川次條

強弱交じ  
食衣の白き  
多相わり  
買ふまふ  
芝流る  
と路し

蕎麦振舞のまへ子下係  
大まうよ旦那の刻む千大根  
咲中かよ朝かくの羨草愛  
河々々のうよたまも鴨の毛  
彦頭よ青らうさむけ声  
草花きふ大神さける御女所  
時花々々ぬ醫者の物まえくさ  
ととらふよよ遅うき足下加減との  
推の愛の聯土多ふ秋 交て  
赤帯の中あよ路し 心らうま

芦丸舎

塔乃二丁目 貞山門  
赤長衣のむら表

金原貞屋

和らうよ  
地らうし  
おく着るよ  
き話し  
恋の白も物  
あり新入  
月すうく  
地らうし

おろくさよこさうくわらし書乳山  
互ふ中内もさうか夜のユをして  
能るまへもそぶるまを思ひく  
従とあゆみ路ふし考るふおし  
かろく纏のあへ居ハか陣ふれ  
うわらうと抱く免まうし  
店のゆらうと淋し心と書く  
妹の胸よ昔ふ火と焚うく  
かろくして愛し一打るまよ及  
路路へんまお房 けわら



東巴庵

一許わくく  
ゆるくく  
たつこも  
水車凡車か  
ひんきん  
名伝ゆ  
江戸名所  
のちり  
うき

神田

堅大工町

前治涼門

北 沾涼

火の上れ  
白粉ハ  
手の届く  
多車  
第そ  
束と  
ま衣  
梅居  
者  
の  
神  
奈  
川

味庵

強弱  
馬  
と  
兵  
は  
仕

當時旅行

増田眠牛

ぬり  
為  
大  
侯  
相  
我  
夕  
持  
氣  
於

言言前

梅林庵

珍弱更り  
神祇名匠の  
ゆるり  
悪のりも  
やう有一被  
ぬつて他下  
を耳察さ  
とつて何と  
蒼龍兵の  
ら抱して  
ゆるり

小石川  
白山裏門

蒼龍門

足高五埴

足高も多高り居凡そ一入  
如く居の自由と書く園の  
修去も前田の時ハ男此手  
教入の神も所存知お以二倍  
思ふ園多へ行つる看く病  
樵火の向る手と知るその  
遠くして何れもあふそ  
梅庵の所掃も所退も松梅  
柳

黒釜庵

珍弱更り  
悪のりも  
やう有一被  
ぬつて他下  
を耳察さ  
とつて何と  
蒼龍兵の  
ら抱して  
ゆるり

柳和泉橋向 先師治山後蒼龍門  
左新道柳也

田口芳竹

怖るる初と梅庵の存りま  
芝の上あも味、在る内へ  
教入の戸あは劇へ神志  
即入部と修物の間も要  
筆と振ハ、居りの戸、その  
解と書ふ智恵、六世ぬ煙化  
茶花、うら耳戸、横、子、原、筆  
柳、香、うら、歌、在、隠、一、所  
珍の考れ、庵、て、修、師、と、懸、う、を  
有、り、や、か、一、や、と、  
橋、分、り、大、名

非言書

2

# 万歳洞

一神話なり  
 大か萱晴天淵  
 神波恩也る  
 女といふ字  
 かと智角白守  
 すくくと拍子  
 杖ぬく地より  
 白芝松老  
 奥の意は  
 なるなり

筋遠橋中門右 本示門  
 斤側所打灯屋のり

# 小菅宝馬

指切つてあのことあ少男の子  
 居あつたりと弟ふ所ある子の目  
 漸くあてお女のあつとあつたり  
 目お晴しよお復の坂  
 川つつ 蝶の舞入情しき  
 去来瓜曆兄てうふふゆわし  
 大伽藍手寄ちうの六守とく  
 言新者のまもほんがう  
 恋したくふまをす 松老  
 何さハ早苗と帯のり持

# 一陽井

一神のすま  
 一意味わう  
 何のさるる  
 世作らるる  
 医者がうらる  
 ちんちんわう  
 樹木恩也の  
 白秋のりわ  
 ねしとわう  
 蒼鼠泉の  
 り持のり

田和町 蒼鼠門  
 西側表

# 谷素外

女の著まわらむ草草  
 芽深の惚へく形と書  
 寺の井れうらふるる気味悲し  
 兵隊屋の雪隠うらまらふ  
 一人あふお七といふ名田舎り  
 醫者の端へくふらるる  
 照子の定くうららみと子  
 今日もえうける長女の醫者  
 長菊のさるる横あ咲さるる  
 谷中の寺よ囃子わらる寺

妍科

強弱交じ  
をどと  
通る  
わう  
素外 臭の  
来示  
ら持わ  
る河の  
と改

表河岸

素外門

嶋

津富

ちぶさぬ揚をびんと湯を煮て  
布をり神肉を切火も力業  
ちふると耳の使はれまは  
通るわう  
百日法華毒脊あり中  
証太殺毒を添えて初  
六六天に買わし  
張多よ  
功者て後  
移下考ひの

田東房

強弱交じ  
田社の意味  
素外 臭の  
の形  
は

赤坂三三坂上

素外門

山内花縣

むら  
初羽鞠の役も  
雷帯て送  
大名進の眉  
梅沢のひ  
夕日か  
空青く  
り徳  
聖信の  
葉又

萬古庵

そりけりく  
何れけりく  
白とくま  
付と考へ  
何れと考へ  
別下と考へ  
あつと考へ  
こ馬と考へ  
あつと考へ  
白と考へ

坂本二丁目

百洲門

小川尹督

お思ふくく  
類つるる  
池う雨多  
為粟上声  
膝の初春  
九十九  
名馬の氣  
鶉の尾

正月庵

この庵  
か  
ひ  
目  
身  
地  
所  
祿  
と

湯澤天神乾什門  
料理多金

野木本来爾

ら番  
食傷  
茶  
瓜  
箱  
た  
以  
お  
大  
民

三寸庵

おしおし  
もたけり  
景色もなほ  
法華の  
秋の  
木物も  
まじり  
まじり

おしおし  
内門  
萬英門

波多野萬英

旅の  
法華  
寺  
馬上  
おしおし  
おしおし  
都  
夜  
医  
比

時尔庵

い  
梅  
庭  
の

浅草新巻越

西村文郷

未  
梅  
心  
近  
多  
吟  
一

手枕庵

来雨同町

乾什門

三上寸松

一沙れとほと  
おし  
何のらもあま  
ふれう考人  
それす松矣  
ありうく  
下さる一  
すくく  
中二ひ極里  
わり白らし

大さゆ舟の  
糸の折りも  
辰風きてうつと一口風ひおし  
秀ぬあて我もあてけ陽子賣  
尼の純走のてうく  
昔日金所くと改めりて  
うつくと皆戸と早は公掃の花  
生破の時控けと斗りあり  
龍はる所ののふとあまわら  
るわけまを社ひとらり若火火次行

社日庵

来示同庵

来示門

野木本季大

強弱交う  
そも馬示鳥  
の折あり  
布板橋のす  
まが  
ま  
ま

一夜は町て舟の横へ切さ  
振袖へ孕らも子縮の茶  
布板と志あするあふ婦も所  
るまを遠つて寢  
かすらふ巨艦首ハ  
舟りきまのし為を感  
あなつはのてあを羽子ゆ子  
さこのく、きひ  
腐りもあらし寺の長刀

# 東西庵

浅州筑前地方 素外門花縣の寺後山不近加  
日音院借地

# 岸田色梁

一談わ  
附々か  
すく  
わく

海の邊人の手と信國が夜日  
くは名ても草の香は汗をくけ  
物干へ出て不二への果の内  
青巻きくくくとかくくゆり  
大工のソリはくくくく物  
ゆくくは隣りあきて絶層  
清信のくくく知れずゆり  
蟹賣の枝おもぬ目よりけ  
出たり記るくくくくく  
やがた病氣へゆくを病めて

# 新花林

経路更なる  
昔情のわく  
恋の白くわく  
恋とくくく入  
ひくくくく  
遠言捨捨捨  
柘と竹中(結句)  
妹嫁のくくく  
武我君杯きて  
武士めくくく  
情語不くく  
夜も柘わり

駿河町 貞佐門  
城後山右督店向表

# 泉月平砂

承君も御手あはれ依谷まらり  
通る度先祖と泣く 古戰場  
柘枝持と下く宿の美く  
妾と素の病もやして 病は  
傷するの多に如と生れ 尋て  
下終も初くは 終入のく  
思ひ余りて 恋と縁小書  
武士の子の恋度十人の元向  
ぬ柱の恨物くくく 終く  
遠く水の景くくくは人を持



# 風窓

張の文匠  
 買文秋の  
 白くく  
 馬橋の寺  
 晴天猪尼  
 祿宣 富士  
 秋とつゆ子杯  
 冬とつゆと  
 閑閑と杯  
 冬とつゆと

# 一石房

先りの地まき  
 附とつゆく  
 の白くく  
 一折とつゆく  
 白くく  
 白くく  
 白くく  
 白くく  
 白くく

源所

巽窓湖十門

三十四目横所

# 深川湖十

殺乃をとり中とをとりて  
 蓮の葉出し小舟と流るる  
 鳥鴨子とぬくと天志松く  
 大門よと食一群 表の文  
 幸ふ系の巻よと遊る花う山  
 浪英よと見らる遊の晴乞  
 軒下へある女さきこり  
 馬醫者の業とさうむ白の表  
 橋乃よと流るるハ鳥と出る  
 駒形と流るる 橋乃

三十四目横所

# 洪珠來

目より利く言次供の丸額  
 角力中く 軽と怖り  
 首と背小陳の酒盛  
 采摺と光した箱よと流る  
 石の上の流く 橋がよる  
 團らの巻え流るるハ  
 白と流るるハ  
 水清と流るるハ

# 天目庵

又岸島漆栢 木仲門  
通り 茶碗店の妻

# 明田秀億

初  
夕中  
新のら  
悪の  
居  
と

思ひにやや修羅て亡ふまきあは  
り谷のや馬士の中村番葛路  
辻台も坊主まきあはてふふ道  
夢々吟小虫入呼吸以聲  
連と初まて吹矢吹 借  
借りても清見山依の残  
神態の酒れ射と切る寺  
室々々々の音よ 又産  
伊加保の湯女入供ふ松明  
は冬は如雲の衣態てまきあはる常願

# 越入道

木挽町六町目

湖十門

# 津下吉門

強きとわめて  
おとけきる  
夕まら  
紀速のら  
わり  
何ら  
夕まら

七福のぢねもを家よ中が  
継りうらしおふ徳道は情ま  
仲人々女の中よ大何々  
小兵あはとも神て吾 版  
寺明々里へ馬のらむら  
江戸の父ある同々らる  
浮子押つて奥家老は  
由縁は人のあは極らる  
うらむらもお父も穴と出る  
因うはあは果るる遠くは徳道

巢居

新つる  
竹まへ  
別荘  
中より  
意のふれ  
と換へ

室町を町目 盤谷門

東側紀行四巻長沢前表

武内栖鶴

・ 州府取中りつるう 精進日  
大工り先へ先と晴す亭  
刺らるへつるまゝ 黒髪  
杉原と滑へて 燃す緋の衣  
・ 崖ゆる梢の上へ 水遣ひ  
種撞の尋すまゝ ちるまゝこ入  
女房ハ ちるりの顔持て居る  
紫染掛 ちる針まゝ 念ひ  
・ 馬ちも 妻も 馬地の六月  
別荘て 妻も 道の名く

三瓜庵

わくしを  
入るは  
梅物より  
下とく  
そり考へ  
そり考へ

高砂町

湖十門

内田栞尾

加茂の聖枝と 蛙と 多葉紛入  
細不 ちるまゝ 二一 天化  
花さへ ちるも 栞の一葉より  
・ 紫陽花と 府法の中へ ちるまゝ  
紫陽花と ちるまゝ 清書をいへる  
梅ちるまゝ ちるまゝ ちるまゝ  
宝引のちりけり ちるまゝ 藤氏  
備へるまゝ ちるまゝ ちるまゝ  
一人云二人云 ちるまゝ ちるまゝ  
玄尔者と ちるまゝ ちるまゝ

寓言齋

吉門曰庵

吉門

大江蜀狗

猶<sup>う</sup>も<sup>も</sup>し  
字<sup>じ</sup>多<sup>た</sup>り<sup>り</sup>白<sup>はく</sup>も  
面<sup>めん</sup>多<sup>た</sup>あり  
一<sup>い</sup>新<sup>しん</sup>白<sup>はく</sup>物<sup>ぶつ</sup>  
そ<sup>そ</sup>多<sup>た</sup>く<sup>く</sup>信<sup>しん</sup>  
る<sup>る</sup>一<sup>い</sup>  
白<sup>はく</sup>中<sup>ちゆう</sup>よ  
意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>  
り<sup>り</sup>一<sup>い</sup>

被<sup>ひ</sup>薰<sup>くん</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>申<sup>ま</sup>る<sup>る</sup> 少<sup>す</sup>法<sup>はふ</sup>  
尼<sup>に</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup> 志<sup>し</sup>の<sup>の</sup>勝<sup>しょう</sup>歌<sup>か</sup>  
松<sup>しょう</sup>跡<sup>せき</sup>の<sup>の</sup>末<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>日<sup>に</sup>陰<sup>いん</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>か<sup>か</sup>う<sup>う</sup>く  
信<sup>しん</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 換<sup>か</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 成<sup>せい</sup>る<sup>る</sup>  
終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
小<sup>せう</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
不<sup>ふ</sup>尊<sup>そん</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
著<sup>ちやく</sup>者<sup>しや</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
鬼<sup>き</sup>の<sup>の</sup>元<sup>げん</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
神<sup>しん</sup>耳<sup>に</sup>は<sup>は</sup>千<sup>せん</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>

郭窻

新道

郭春堂

知<sup>ち</sup>く<sup>く</sup>し  
款<sup>くわん</sup>の<sup>の</sup>白<sup>はく</sup>意<sup>い</sup>の  
白<sup>はく</sup>合<sup>がっ</sup>影<sup>えい</sup>杯<sup>はい</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
信<sup>しん</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
尼<sup>に</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>  
付<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
り<sup>り</sup>一<sup>い</sup>

親<sup>おや</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
湯<sup>ゆ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
小<sup>せう</sup>束<sup>そく</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
病<sup>びやう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
蔓<sup>まん</sup>物<sup>ぶつ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
利<sup>り</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
飯<sup>い</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
迂<sup>い</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>  
大<sup>だい</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup> 終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>

# 軸窓

強<sup>ニ</sup>り<sup>シ</sup>  
ち<sup>り</sup>り<sup>り</sup>  
湖<sup>ノ</sup>イ<sup>ノ</sup>兵<sup>ノ</sup>  
着<sup>キ</sup>る<sup>也</sup>  
く<sup>く</sup>  
方<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>

# 湖十回庵

湖十門

# 深川木者

近道<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>印<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>る<sup>也</sup> 難<sup>ク</sup>矣  
吊<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>衣<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>之<sup>ノ</sup>者<sup>也</sup>  
物<sup>中</sup>上<sup>ニ</sup>首<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>伸<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>育<sup>ヲ</sup>務<sup>ム</sup>  
通<sup>ル</sup>者<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>女<sup>ノ</sup>主<sup>ニ</sup>從<sup>フ</sup>  
衣<sup>ノ</sup>紋<sup>ヲ</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>せ</sup>て<sup>は</sup>衣<sup>ノ</sup>子<sup>ヲ</sup>抱<sup>ク</sup>  
魂<sup>ヲ</sup>祭<sup>ル</sup>玉<sup>ノ</sup>の<sup>上</sup>臺<sup>ニ</sup>此<sup>ノ</sup>戸<sup>一</sup>枚<sup>ヲ</sup>  
糸<sup>ヲ</sup>因<sup>テ</sup>と<sup>出</sup>して<sup>置</sup>て<sup>は</sup>法<sup>ヲ</sup>祈<sup>ル</sup>  
入<sup>レ</sup>松<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>ひ</sup>大<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>神<sup>ノ</sup>崇<sup>ム</sup>  
岸<sup>ノ</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>ひ</sup>武<sup>士</sup>の<sup>威</sup>入<sup>ル</sup>  
家<sup>ノ</sup>主<sup>ト</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>神<sup>ノ</sup>講<sup>ノ</sup>の<sup>實</sup>素<sup>ヲ</sup>祀<sup>ル</sup>

# 箴力庵

強<sup>ク</sup>弱<sup>ク</sup>交<sup>ハ</sup>ル<sup>也</sup>  
玉<sup>ノ</sup>味<sup>ノ</sup>苦<sup>シ</sup>  
祚<sup>ヲ</sup>祿<sup>ニ</sup>と<sup>ス</sup>る<sup>也</sup>  
榎<sup>ノ</sup>杓<sup>ノ</sup>  
市<sup>ノ</sup>砂<sup>ノ</sup>兵<sup>ノ</sup>  
の<sup>所</sup>わ<sup>り</sup>

瀬戸物町堀屋去平砂門  
たち<sup>ニ</sup>を<sup>の</sup>く<sup>く</sup>

# 桑園貞喬

ま<sup>ご</sup>寒<sup>く</sup>樹<sup>ノ</sup>皮<sup>ノ</sup>の<sup>穴</sup>を<sup>穿</sup>て<sup>置</sup>て<sup>は</sup>  
盗<sup>ム</sup>く<sup>も</sup>す<sup>所</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>孔<sup>ノ</sup>明<sup>ナ</sup>  
以<sup>テ</sup>水<sup>ノ</sup>の<sup>う</sup>ら<sup>り</sup>も<sup>や</sup>ら<sup>ず</sup>に<sup>ま</sup>ご<sup>ノ</sup>を<sup>ま</sup>  
佃<sup>ノ</sup>者<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>の<sup>心</sup>か<sup>滅</sup>  
生<sup>ケ</sup>る<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>初<sup>メ</sup>の<sup>年</sup>  
思<sup>フ</sup>夕<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>の<sup>色</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>お<sup>の</sup>れ<sup>ぬ</sup>也<sup>也</sup>  
あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>  
岸<sup>ノ</sup>と<sup>考</sup>へ<sup>る</sup>指<sup>ノ</sup>の<sup>定</sup>ま<sup>り</sup>し<sup>て</sup>  
其<sup>ノ</sup>存<sup>ハ</sup>迷<sup>り</sup>ひ<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>故<sup>也</sup>  
神<sup>ノ</sup>園<sup>又</sup>蓮<sup>池</sup>わ<sup>り</sup>て<sup>は</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>ニ</sup>

中寛

神祇並の  
あとのろ光  
手〜かり  
湖千兵衛の  
こゝろも  
わ〜

湖十同庵

湖十門 角田為衣

方敷うきを娘の男坂  
、女の自ぬらる目して  
蚕柘年神さり八集うそ  
陳種とつて所くま所くま拍子  
因軒素へ神を足も末の端  
内小りと百程つはは扇より  
芝へ梳の下りた 六月  
湯女の恨も一母りた  
女中りて厠か〜り  
濠洲の唄よ儂る底糸

夜雪庵

強弱交る  
色角  
〜  
〜  
〜  
〜

通 露月町

東 金羅

先師貞屋後橋川門

廻玉の足よきりてを夜敷馬  
巴山吹 中も ぐ〜仲  
素衣の役者 初ふ之團  
衣風の庵も新と春日山  
市持弘小市衣の景ハ〜  
姉如廊よ鳥もうつ目  
おろれ柵のりよ梅衣  
掃洒の隣は琴の紐ゆ浦  
松葉の踊りもとろえねのよ  
か国よのふは初徳を来

桂窓

路の交は  
当月のま  
多し  
物おも  
記逸の  
少し  
或は川  
らふは

統町八町目

湖十門

牧冬涉

娘、傳多て 医者、  
平乙女の子は松を  
入聲ハ先ニ云 門  
師走のまふ金  
まふの内のまふ  
角十のまふ  
一体の目まふ  
見納ふまふ  
まふも本まふ  
漫石まふ

萬葉庵

あり  
秋は戸  
尼蓮女房  
穠多子  
不也  
手く  
何れ  
ぬ物

濱町 山伏井戸 平砂門  
白雲流六地

皐月東寓

僧あまて 庵  
押入まふ  
桂藤宿  
寺向ら  
閑伽と  
招印  
まふ  
あま  
秋情の

規矩庵

強如更之  
船常也  
あひて  
る  
恩也  
新教の  
うらま  
ら

雲母坊

れうし  
あう  
高情  
大  
系  
甲  
か

人形町通 柳尾門  
田取町西側裏

邑樂涉十

彼能く角力多し  
下通り  
仲く  
家小  
十人  
法  
島  
撞初  
命

緋色町高目 湖十門  
茶を煮す

千歳圃月

小舟と流を泉水の  
浦静  
杉葉の  
遠ぬ  
鳩  
下細  
栲



徳山齋

張の交し  
朽しと有  
大まきくを  
休まし  
糸仲の  
意味  
あや

八面坂  
徳意大社文の向

糸仲門文角坐随所

榎本牛吞

一雨庭す 大佛の版  
竹所て者かかしの版し版  
揚ろくろめくく磨と押さ  
地獄の画馬の河女家の大金  
中ろうあまきまの病まぬ通る  
祿らく版河の根のくく  
国の古寺小共後あてき  
音深くまく角や仲の子  
清くくあや馬士の大声  
赤子の 趾 朝日ひやく

旭連舎

一詩を  
りゆあや  
字あま  
大名 撰集  
買色 古所  
中まや  
玉菊 小菊し  
吉原箱籠の  
初りも極みし  
り  
あや  
あや

日本橋 先師存義文角栖隱  
く池ま新撰後巻中ま

東條萬生

溜めくくあや雪のまあや  
撰集既満千村を古今の拙し  
大名も雪のまあ痛まを  
角を揚出す 流流の場  
大名くく 玉菊り客  
人くをく 祿地家の思ひは  
撰してあやも極と初くせを  
髪は利つても 扉のゆき  
燈あやあまあ菊りあや夜し  
中宿の報も袴もあやあ

合歡堂

張羅の交は  
愛情を  
うすま  
むすま  
恋の白  
系文  
秋者の白  
らる

龍心亭

買文の白  
多兎水車  
松の尾神  
神祇の白  
思を  
初

西の窪 玉桂沾山  
神谷町

内田沾山

予為呼連を有れと多まひと  
看病の給り格久の系履取  
澄の中より白くなる福豆  
母の長陽より炎度う立  
ふ柳子のさくは深を多と持  
うきうきふふくのみまは拵揮  
著りくくく系図を多と  
新地へ古く神道者越ス  
異是のたむ老神能相見  
歌喰ふ入表 佛士う 居城う

兩國柳橋 玉桂沾山  
治耕多隣木天の因

和田海旭

浜のふく風の修ふふケ日  
蝶柳の白く不孝なるる家  
水も病し居る院の引の  
枇杷葉と柳の 松の尾神  
長刀の吹の 遊しては明  
多兎のうてふ多つる 魚  
梅影るるそ日は鐘も勝り  
節終ぬくく白く生る神の鳥  
今貝おかしき初の花をぬり  
遠くの子の薨多と多とす

一乃堂

わくし  
一乃堂  
わまき  
志の白  
言の種物  
まき

小日向中橋 玉桂沾山門  
川北横小路

竹内環山

一乃堂  
都下  
長花  
功  
如  
初  
寐  
一  
先  
橋

無徳庵

新  
傳  
息  
燕  
或  
見  
あ  
一

芝赤羽 玉桂沾山門  
新門前行町

高橋岱山具

一乃堂  
女  
寺  
五  
送

言言角

# 是花坊

張子りし  
買色  
名所  
たきくゆし  
下の白  
ななほ

# 丘花坊

一海路き  
軍中のる  
秋の白も  
伝ふや  
わとるを  
き

赤坂表傳馬町 沾山門  
二丁目醬油屋ノ裏

# 堤風道守

秋のうらみし、霧の夜の  
山形し歩けり秋の氣も  
邪を伝ふ出る同六月  
風流して輝く松を放し  
郭公炬燵やうらみ松  
かゝ霧のうらみも松の  
面源し婦女師の面も  
水と火の中うらみ松の御堂  
柱をたて名敷の麻起と子か見  
生息し秋の光りし

麻布市共衛町 沾山門  
中辻番向通り

# 園林石鯨

市袋の登人うらみ松の  
云葉あきしうらみの  
醫者の後うらみ松の  
表のりや花もあはれ  
うらみ松のうらみ松の  
大徳の画と紅團の顔  
市代の幟と護武者の  
藤のうらみ松の板る九重  
新尼の拂子と松と入る  
名匠のうらみ松の味

非寄

三

# 下庵

一法わくじ  
 恩電のる  
 ら海一  
 秋せり帯  
 の月抄物  
 神祇ホの  
 りそこま  
 伝ま一

梳町蛤店

沾山門

# 省不言

即幸以耳よく叱る 寺  
 痛くはぬ時ハ思ひ出さる  
 誰か者の春を極もみくして  
 後と多ても終るはさ浪の成  
 物の命と法なく 調伽楠  
 生祿の癖と女房さ笑はれ  
 子の外來園の灯とそそ思切  
 幼化佛蓮花とわらる松の口  
 かく生れて神る淋しき  
 本綾の目と世る新しき

# 下庵

一法わくじ  
 恩電のる別  
 子とつあ  
 系とつあ  
 九重と云  
 或ハ系の津社  
 仏閣地名  
 世とつあ  
 ら海一

浅州三節町 海旭門  
 ざうこく店の句

# 垣紫鳳

傘一母の指と 糸の糸  
 ちりてもと糸と糸と精進日  
 雲も千ぬ庵と糸と梳り宿  
 仏おも子と糸と糸と糸の糸  
 年柳と糸と糸と糸と糸初  
 入お入 糸と糸と糸と糸  
 糸と糸の糸と糸と糸と糸  
 目と糸と糸と糸と糸と糸  
 昔の雪と糸と糸と糸と糸  
 物思ひと糸と糸と糸と糸

六弄坊

強弱交互し  
れしこと  
入て強ふに  
意のり臣  
一ぬきぬ折  
そくそく  
すくすく  
なすく  
わとえをを  
と

麻布十番  
竹町稻荷前

村松子鷹鳥

只ふくは荷ふる鹿と芥川  
城塞と天窓の布ひ 姉妹  
魚つ魚舟も七里の宝舟  
写りし魚の操り 元日  
丸綿 ありし鳥の目く降し  
控とまきし 何て出る 日記  
吾等の見えしとさして 吾  
智恵と苦みしと 遠海ハ立  
まのりかふとさくさく 吾  
机離れし 丸重 くとさく

古來庵

一脚をけり  
言傳ふは之  
一 皆牌  
博愛折  
すつを杯と  
りつを杯と  
外とあつと  
す

銀座町三丁目裏通  
鎗屋町新道

馬場存義

若身と成く母の海はわて  
浪浪大身の法念をうり  
此不誤の家と稱うは不代り  
出家のそる格の少利は  
骨解打すつむが者のそる通  
る幸子許さう弟と捨さく  
石牌と割る世この雨と法  
家並つはまやと戸名物ねし  
き池とくそ鬼の喰めらるは  
取揚波も 波治の湯か城

詞話角

# 櫛庵

堺町通り和泉町  
げんを店

# 交買明

移りなり  
何れもさく  
すくくさく  
買色秋枝也  
麻の戸秋る  
とほし  
えの白 玄糸杯  
去つて  
とく

長閑さの何れもさくさくさくさくさくさく  
時雨も勿神くくくくくくくく  
我々のておおておん 五十五  
えりくさるのすく物 裾をりり  
大門も溜りくさくさくさくさく  
江戸も物りくくくくくくくく  
甲斐と駿河のちかか山くく  
夜はく解く持ぬ 正月  
白代り煉をぬくさくさくさく  
江湖の勇く 白雨とまき林

# 木樨庵

神田柳下  
おのふおのふ

# 谷口樓川

鯉朝長  
鳥野子照月  
鼻の事 鼻のえ  
桐火倉 磁土の  
一箱 あつさ  
おのふ  
おのふ  
おのふ  
おのふ

陽うつさぬうておのふさくさくさく  
おのふおのふおのふも 珠珠の歌  
光陰のさくさくさくさくさくさく  
郭くさくさくさくさくさくさく  
おのふおのふおのふのさくさくさく  
音もおのふおのふもさくさくさく  
おのふおのふおのふおのふおのふ  
おのふおのふおのふおのふおのふ  
おのふおのふおのふおのふおのふ  
おのふおのふおのふおのふおのふ  
おのふおのふおのふおのふおのふ

非皆集

七六

### 伽羅庵

跡さうもじ  
揚る多指おと  
つられりま  
るまじゆ  
わとまをけ  
んがかりあ  
はくま一

中町四町目  
新道北側

### 小栗百萬

思ふくよは羨くつふ教日女  
至くも本岡坊もやうり倦  
さしこ四子面白さ其らうり  
年志あうふく一年と云ふ  
首つ引帯ハ引切願ハす  
松崎の多浦の産物もやうり  
源坊の内おも凝とれりし並  
買てりもれ指され遠小花梅子  
夏心あふりふは身と書けりし  
宮庭の下よたり具は坊も持

### 柳子眠

夢見たの白  
もあわり  
おしゆを  
肩の霜  
憂しやぬ  
とむま  
秋の夕ま  
淋しなる  
夕暮し

### 榎川因る

### 谷口雞口

誰か為の上れ運や部  
芒の花咲石のかさしり  
弟もあも娘は夏の灯り  
藏ハ又入目りきり  
風の極や路と回ふ君  
顔るを店の櫛の葉り  
卯のむれををり  
ねらうさうらや  
君まふて燭も憎し  
油四  
わすしのさくちとん



# 深月庵

強弱交じ  
 秋の夕田都  
 新於家杯  
 つりくろふ  
 新く治し  
 枯物とら  
 思思とす  
 とく

茅協町  
 坂町柳井湯

# 三上祇丞

色あきらしくし  
 長くる像又  
 一日は木の  
 女も付して  
 新於るる  
 凱陣お  
 市庭  
 母屋の菊玉  
 一初と  
 一初と

# 新樹庵

初くく  
 名由思  
 のら子と  
 りあ  
 わり  
 白  
 り  
 とく

銀坐町  
 二町目西側

# 花隈圖大

夜露  
 矢  
 未  
 病  
 智  
 相  
 脚  
 降  
 子

樂成庵

わくわく橋  
かひ杉子店

藤中温克

初〜〜  
買の兵の  
人持なり  
秋夜の月  
或は植物  
景も色も  
〜〜

粟飯もお喰ひし時ハ男先し  
若水と和布対の裾互の濡次手  
そ夜降々かハ祇園も紙の音  
蓮山や吟し 玉堂の魂  
若水家の追々〜〜其書し  
晴雨の栞十と出〜〜切  
切晴も深く都のかけつ〜〜  
〜〜〜〜惚れれを付てふ〜  
寮へ泊つて粥の宵子入  
初〜〜の〜〜り〜〜と名号渡河彦

中明亭

神宮前二日東側

北 在 轉

強弱交じ  
粘りのり  
泥器  
多物有る  
考る〜  
海鼻 吾川  
研川 ぬも  
程の名不し

亂れよ冬の鬘りの 石和川  
〜〜の目と待て移舟にた〜  
常盤うまの糸を〜  
中明の思ひ 若良の〜  
肉とふふ〜る女房の柳〜  
〜〜ぬ糸拵て〜る月  
〜〜やの〜火浪の〜は鼻の秋  
〜〜あ〜て脱袴夜火の〜する  
か〜〜〜大井川 越  
向小橋浦〜るの 和袋

自在庵

活潑なまじ  
能のりや出目  
五洲もろ丸  
温泉場の雨  
暮春歌丸後  
の巻一買色  
徳と印の字  
如たしつく  
湖十兵の箱  
松尾村松平寺林  
下のうとえ一  
法のるもま一

楷所  
二月新道本戸際

仲 祇徳

不要おやと遣子の息と画と出連  
あつも極の極り 吉武  
高尾の息と殺る 面打  
赤尾才中と極女も若る中  
活のくつもからまの度毒味とく  
傾城の金買ふ物と思ふ一  
善極ハ極りぬ一羽の羽  
君若りよ多ま極ハ馬て肉そそ智  
又ハハ十軒店も雲ハ上  
拂子動りて大御堂さるハ

神田庵

強弱更白  
古くの名も  
家人の名杯  
人多くまじ  
海神をまじ  
むす之と一  
初と名物  
得しく  
わが

神田新石  
東新道西側

木村小知

住持ハ出の源一とそ  
清水のりま一高話もまじ  
江湖路ハ意地ハ本まじ  
並好ハ折ハも好極ハ油 一  
思ハるとまそハやまじ 若ハ紫  
茶ハ扇と持てまじ 一  
向ハ程の友ハ名居ハ神まじ  
極ハハぬ夷の弓ハ杖の菊  
若ハ陰まじまじ 稻ハハの 版  
宮ハより向ハハ一 家ハ中のまじ

非 音 書

# 雨夜庵

南八町堀

五町目南村指の西

# 山本亀成

新しうよき庵の  
を流るよき名  
一し傍を流る  
女房妻内儀  
キヤツトフワト  
ソツト杯を流  
酒を流る  
屋のまはら  
江二名不を在  
のその名  
うた

燦あひ物と禁あふ火つ流る  
と一切の業を見つ流る寺系  
似つて流る多申へおとす  
印あ振を妻の身へ遠く地牛  
濃戸物廊よ 屋の近付  
田町の湯屋へ田へ薪と積  
寺の井れうり多味思  
程ヶ谷ハ遊一果一の流り  
曲流ハ淋一 廣徳寺前

# 眉斎

榎川同石

# 田女

わくし  
康  
軍  
保氏  
伊勢  
尼の  
傍  
法

茶うくも庵の山杉  
身もかたふ流るへ庵を  
夕白やみ糸の始流る  
鬼もさる流る  
いもり行は空際  
身ちりう流る  
貝流も田戸の田裡  
秋もさる世を流る  
傾城の流るて抱く子よ

### 石壽詩觀

中橋上核町  
横町をまゝ編舟の側

## 壽秀國

和のうた  
六月 月の夜  
核町  
奥のなま  
買ひ  
らん  
り

かくもねるうゝ月 夜白  
家 家と暑く醒く六月  
行舟のし舞はくよ遠隔買ひ  
夢切て夢もくもいし 汗ね  
秋の風太人の名の度とて  
家と家ふして溜り水  
色さうしてを月あつた核子  
意ふふふふ家 葦の石文  
水袖と向か多世の冬とて  
一掃切と雲雨花う完

### 元夫庵

葦場町  
坂町地五郎

## 大葦原可因

張り多神  
神  
其場  
わ  
り  
他

血刀て胸をとおく水夜  
使くもは幾を寺は掛く  
門内へ持ちけり衣と書い  
子の情をさくさくをさ  
さうす水鏡のちを入さ  
縁作らばさうもゆも仏の  
音耳空と 情の生酔  
核免の物と神の灯て  
剥とくを野渡と女の叫ぶ声  
あふさく一葉散る遠いふめ意

# 連茎庵

初〜つし  
 秋の白  
 江戸の地名  
 子禿  
 心指  
 毒

神の  
 松原下二丁目横町者店通

# 志村常仙

兼宿の一声〜 威徳寺  
 う〜と 霞見と 秋つかき 送  
 袴 ちき〜 他所 送  
 十野の ちき〜 弟 送  
 十月の ちき〜 弟 送  
 之井の ちき〜 弟 送  
 母 送  
 番 送  
 下 送  
 十 送

# 丙辰夫

白を 寝て 留  
 杉 送  
 心 送  
 戸 送

小知 田名

# 木村金洞

眼 送  
 十 送  
 疎 送  
 飯 送  
 水 送  
 茶 送  
 実 送  
 糸 送

### 宗梅居

宗梅系代北

### 笠家逸志

和らるる  
 衣人の衣引板  
 大将帯ひ  
 秋盛の白  
 宗梅の  
 杯の  
 宗梅の  
 宗梅の  
 宗梅の  
 宗梅の

芳らるる者母の身おも 長  
 類校して引板の衣と試  
 乾鞞の所より  
 宗梅の  
 宗梅の上より 大将の遺  
 世をかり物の掃  
 燭臺の側てあぶれた衣の袖  
 踊の熱より夜り  
 所造暑れた 陸岡の旅  
 遙く此叙とわらるる

### 我王子

两国本沃町  
三町目新渡御所

### 北村葵足

強弱  
 白  
 必  
 の  
 子  
 ら  
 水  
 自  
 あ

白  
 網代  
 帆  
 名  
 田家  
 版  
 子  
 袴  
 人  
 火

露布庵

強弱交ひし  
景色植物  
秋の夕夕  
夕夕夕夕  
夕夕夕夕  
夕夕夕夕

小高川  
上、餅指町

峽田菊堂

小原女の肩のくさるる地牛  
白濁の煙の走る後遊  
多ひかたつ玉の階半晴雨多  
身の上の風と雲の交り接  
新しき時も多し車  
嬉しき時めあつて  
ちつととて度して同知及残憾  
今約後と比五補て  
子と持とと當てらぬ後腰  
相法はあかしくく人難也

青陽庵

一神ありし  
多々  
庵  
驚を物杯  
あひて矢の  
侍しるし

目撃者  
ひよの町一軒中

曾古明

如き馬道  
吹矢町ありとゆる糸物  
今ハ後と後と中  
友約の柄の言さよ冬  
女後の糸の通るま冬取  
大将は亡く糸は連袂して  
香葉は移る糸を振ふと  
隣りの糸もあつて  
徳田男まつる遠つて悟まら  
早急な物しきとのを兜

詩書

三十四



# 黄雀衝

牛心

若文八幡前南子

## 遠山雲柱

一積強きり

陣中の日

蛇の白

物遠く

ヨリ

魔不若て杉乃へ蛇と吹落し  
 大供奉は佛にこそは禮よ  
 復魂を懈りてへ分辨らり  
 味りて名へるなり 舞一の舞  
 幽是よりあつて思ふ所 思ふの志  
 宵不月進くをさぬく 蛇  
 當り十月と陣中てく  
 梅夜に割て憂 胸りすく  
 二世のけり文 おもからすも大根  
 待院の凡も君とと叫く

# 星霜庵

新所平河町 一西目給店

## 熊谷白頭

わくくをさ  
 らくく  
 むく  
 追ふ心  
 赤床の心  
 のらゆま  
 多く  
 そらゆま

新町一番赤より子  
 新所女より女房の子  
 井戸より持て梅老の五層  
 物よりの心 蛇の持素  
 小云り買 城の叫り  
 法儀の名より海耳の灯 亮  
 袖形て一寸掃を市以産  
 赤書の袴名より持伝の灯  
 子の草履よりかき 初鐘  
 手拭て居り程掃 葉 友

非皆齋

三十一

# 三呼庵

在轉回房

# 河野丈天

やまゝこ  
 とつとつ  
 うとつ  
 買色  
 備味  
 禿  
 心

島原やき柄のうつと柳  
 畑板あゝぬ 秋のち  
 子思ひ夢う 吟ふ虫の由入  
 道の花雪水の吹流と是す  
 岸の草うと思ふ 魚の流  
 星ふれとも牡丹の西日さ  
 澄みあて新り花かつこ  
 尾風こしら中よ白子の橋  
 大年の夜一埋本福安州  
 菊ふと菊踏若さからぬ

# 大 中 庵

原助丁橋  
 先主志門  
 長屋

# 關 卒 志

弱  
 長  
 自  
 孝  
 秋  
 う

孝れも神の初徳の二金先  
 如て終て終る 重代  
 源行の枝も新ぬ菊と  
 高橋の地代れ負子帆と  
 後る木の竹も運のそ  
 破すろとまて納るる武家  
 焚けりおあはる初徳  
 表の日の一日あはる  
 教割の片くひくさ 圖  
 樓か見えて秀像

賞酒庵 独立

宇多川町

勝沼大道

一海新心

恩也

新夜

意

松花も

多子持ぬ懐く、覺の物語  
示ぬとせるといふの六十  
鼻沃の松とにる岸の玉  
語る所や松花は誰花は  
み子とくうき海鳥の想  
雷とあはれよあはれよ新花  
雲とあはれよあはれよ新花  
指くるといふの意よ念佛  
妻のあはれ母知りてふ  
刺してあはれ花の依いりて

松汀菴 独立

赤羽的場

今村雷奠

りし海ま

古人の衣

懐也

態也

新夜の日

とて

僧正のあはれと菊の虫  
束のあはれと交の九重  
通ねがのくと頼るよ飯  
あはれ男のあはれけい飯  
り燈部あはれとくの嘘  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ  
あはれの網よ七ツのあはれ  
あはれのあはれとあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

赤羽的場

物上  
杖賀野坊

張うりあし  
湖十糸の  
ゆゆと契  
う中し  
まなうま  
あも葉  
こ葉

河川  
かふのあひ表

竹王 抱節

千載集は矢瓦 研中  
藤之のかみいあざんくま喰れさり  
今戸のまもりぬ梅の尾  
縁と刺しぬり禅の背長  
蓮又の後家りう育れ白粉  
綺と吐く腹へ腰巻を入替付  
秋実くく鶴馬の紐の尻しき  
卯の花とすは漢もやうしき  
佛へあつとむけるすしき押し  
あつ年のあつたはつたえん

独立  
素湯庵

一物わらう  
あつたはつたえん  
あつたはつたえん  
あつたはつたえん  
あつたはつたえん  
あつたはつたえん  
あつたはつたえん  
あつたはつたえん

二谷  
田中地蔵茶

笠家左衛門

先師曲房門  
この茶の仕方新しき草 希  
深州へゆき所近の壘所江  
猪原す茶ハ文ふかしく如高茶  
昔頃の寺道く徳と麻道ありて  
喰積も門松ありは志賀の里  
迂しくくも船のかみ 京  
山吹よ傘のりかきと返す書  
高平て茶もくも茶子の茶さうり  
扱之のさうまうりか蘭の花  
くま西茶陣の雪の起り

獨立 珍重庵

和くし抄抄  
抄物とく抄不  
入て抄抄  
千佐の抄抄  
福抄  
抄つて抄抄の  
抄抄と抄抄し  
抄抄抄

河原川町 森乾竹門  
柳稻有横町

根本雪齋

冬近く抄と名家を  
負しきりて祇王  
夜更の抄と  
藤よりくく日換  
多さし地の隠  
初一葉落し抄  
白鞘の汚れと  
一首書程ハ  
十日と  
持し物放しぬ人の福

獨立 葛庵

和くし抄抄  
抄物とく抄不  
入て抄抄  
千佐の抄抄  
福抄  
抄つて抄抄の  
抄抄と抄抄し  
抄抄抄

榎原 和泉五福

藤 李門

冬近く抄と名家を  
負しきりて祇王  
夜更の抄と  
藤よりくく日換  
多さし地の隠  
初一葉落し抄  
白鞘の汚れと  
一首書程ハ  
十日と  
持し物放しぬ人の福

誹諧之名出滑稽傳所共  
 知也我何容齒牙此集也  
 欲使彼競優劣者探宗匠  
 蘊奧必逢其原也能秘諸  
 帳中則孰能敵之得俊句  
 麗藻猶取囊中物雪子之

舉大矣至矣余忘其固陋  
 記卷末之爾

忍川舍

明和戊子秋 徐水

諫

田

誹諧齋後篇

惣宗近句ノ点式印譜委ノ記  
芙蓉散人雪成著 近刻

四季發句帳

江都惣宗近四季句悉ノ集  
芙蓉散人雪成著 近刻

誹風柳樽

新堀端考士万句合拔書  
初二三篇迄出来補助 櫻木庵

源氏活花手引草

千葉龍卜先生活方圖并四季  
花寄松陵齋五凌著西面摺出来

和漢軍談記畧考

諸軍談年曆順付委ノ記  
并名數書名寄 西面摺出来

明和五子戊子種

東廬山下竹町星運堂梓

花屋久次郎

